

入 選

私たちを支える水

水戸市立第四中学校

一年 宮 林 凜 音

私が「水」と聞いて思いうかべることは、海の水です。私たちの住む地球は、「水のわく星」と言われていますが、その名の通り、地球の表面の約七十パーセントを海がしめています。私は、海が私たちの生活になくてはならないものだと思います。

日本は島国なので、海か空を通らないと、外国と行き来できません。私たちが生活に必要なものの原料は、どのように運ぶと思いますか。ガソリンやプラスチックを作るための原油、電気を作るための石炭や天然ガス、その他鉄などの金属、麦などの食料品は、重かったり、かさが多かったりします。これでは、空を通る飛行機では運べません。なので、海を通る船で運んでいます。だから、輸入した原料を

加工する工業地帯は海ぞいに集中しています。外国から船で原料を輸入して、製品を作り、場合によっては輸出する、という工業がさかんです。

私たちの生活はもちろん、日本の産業を海が支えています。海が関わる産業は他にもあります。それは、漁業です。スーパーに並ぶ魚介類は、日本でもれたものがあります。食の面でも海や海産資源は、私たちの生活になくてはならないものです。

しかし、海産資源は年々減少していると言われていきます。あたり前にある資源だからたくさん使うのではなく、大切に使うべきだと思います。もし、海産資源がなくなってしまうえば、食卓にのぼる魚が消えてしまいます。将来のことも考えて、資源を使いすぎないようにしなければなりません。

海以外にも、私たちの生活を支えている水があります。それは、川の水です。川の水は淡水、真水です。地球上の水の大部分は海の水で、地球の水の中のごくわずかな淡水を飲んだり、農業に使ったりしているのです。川の水も私たちの生活を支えています。弥生時代には、川の水はうばい合うほど大切に、

なくてはならないものになりました。それは、中国から稲作が伝わったことで、米のとれ高に關係する水が重要になったからです。水を飲むだけではなく、稲作に水を使うことが生きるために必要になりました。

平安京周辺の地図を見ると、平安京の中には鴨川、近くには桂川があります。後の時代に日本の中心部となった大阪城の近くには安治川や木津川、江戸城の近くには隅田川があります。それぞれの場所の近くには川があります。私は、これらを生活用水として利用したり、農業に使ったり、税などの物を運ぶことに使っていたのではないかと思えます。現代では、水道ができて、ごく簡単に水が使えます。その水の元をたどっていくと、川の水になります。川の水がじょう水場できれいにされて、水道を通り、私たちの元にやってくるのです。

今も、昔も、川の水は生活用水、農業用水、物や人の運送などに利用されています。これらのどの使用方法でも、私たちの生活を支えています。

このように、川の水は様々な面でわたしたちの生

活を支えています。自分が直接的に関わっていないように見えても、元をたどれば自分につながっているのです。水をあたり前にたくさん使えることは貴重なことです。一つの資源である水は一人一人が生活に必要なものです。だから、私たちの生活と水が深く関わっているから、水を大切に使わなくてはならないのです。